

市民の皆様のご協力により先行9区で大幅に削減！

プラスチックごみの分別・リサイクル状況についてお伝えします

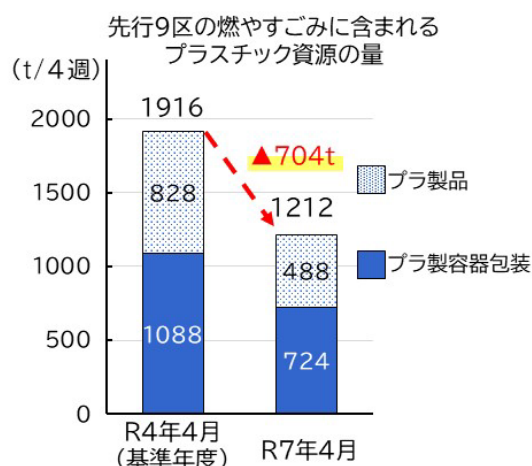
ごみ処理に伴う温室効果ガスの排出量は 33.2 万 t-CO₂(令和4年度実績)で、その9割はプラスチックなど石油由来のごみの焼却によるものです。横浜市では令和6年1月に「ヨコハマ プラ 5.3(ごみ)計画」を策定し、焼却されるプラスチックごみの削減に向けて、これまで分別収集していたプラスチック製容器包装に、新たにプラスチックのみでできた製品を加えて、「プラスチック資源」とした収集を開始しました。

令和6年10月に先行9区(※1)で開始し、半年が経過したことからその実績を報告します。

※1 先行9区：旭区、泉区、磯子区、金沢区、港南区、栄区、瀬谷区、戸塚区、中区



燃やすごみに含まれるプラスチック資源の削減量



燃やすごみに含まれるプラスチック資源
1人当たり年間削減量

▲5.6kg/(人・年)

計画目標値: ▲5.3kg/(人・年)

燃やすごみに含まれるプラスチック資源の量について調査を行った結果、プラスチック製品・プラスチック製容器包装がともに基準年度から減少しました。これを1人当たりの年間削減量に換算すると、**▲5.6kg/(人・年)**となり、計画目標値である**▲5.3kg/(人・年)**を上回る結果となりました。

裏面あり



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

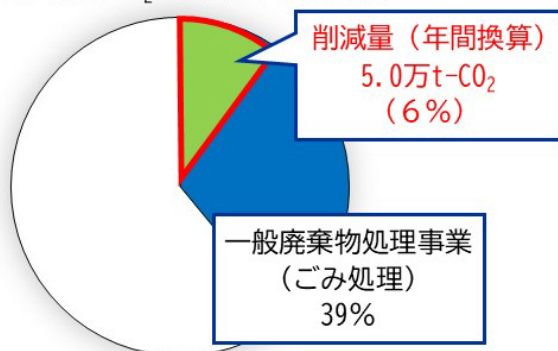
2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



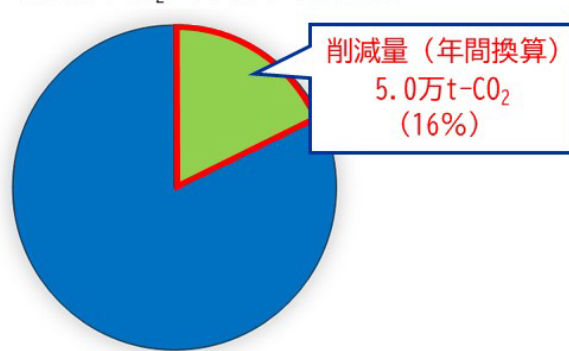
温室効果ガス削減量

今回の結果が全市で1年間続いた場合の温室効果ガス削減量は **5.0 万 t-CO₂** となり、市の事業に伴う排出の **6%**、石油由来のごみ処理に伴う排出の **16%**に相当します。

市の事業に伴う温室効果ガスの排出量
84.4万t-CO₂（令和4年度実績）



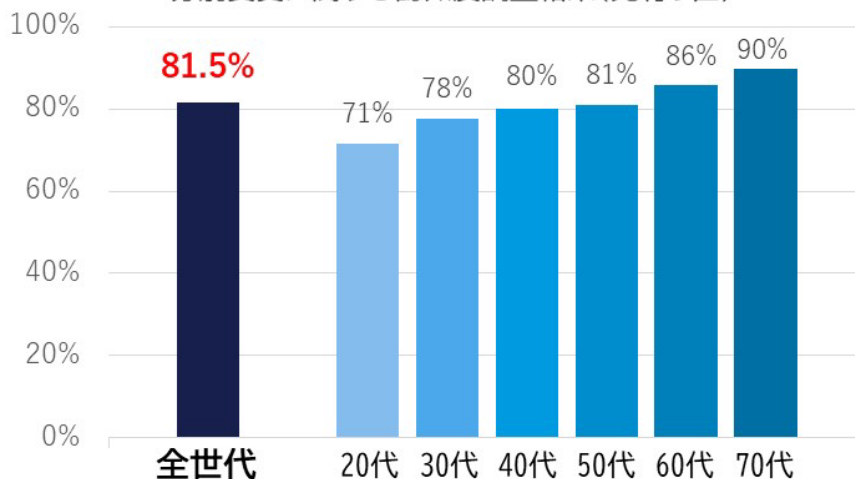
石油由来のごみ処理に伴う温室効果ガスの排出量
30.6万t-CO₂（令和4年度実績）



分別変更に関する認知度調査結果(先行9区)

プラスチックごみの分別変更に関する認知度を調査したところ、先行9区において、全世代で **81.5%**となり、身近な脱炭素行動を多くの方が認識されていることが分かりました。

分別変更に関する認知度調査結果(先行9区)



市民の皆様のご理解・ご協力により、先行9区でのプラスチックごみの分別・リサイクルの拡大が着実に進んでいます。今後もさらに周知に取り組み、市民の皆様とともに、取組を推進します。

お問合せ先

(プラ資源の調査に関すること) 資源循環局政策調整課調査等担当課長
(ごみの分別に関すること) 資源循環局業務課長

近藤 淳史 Tel 045-671-4565
石川 巖道 Tel 045-671-2308



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

